

中国経済は今後、どの程度のスピードで成長していくのだろうか。誰もが関心のある問題だろう。

成長という長期の問題について考えるためには、その経済の長期的なトレンドをきちっと押さえる必要がある。暴動の増発など社会の不安定化、シャドーバンキング、深刻な環境破壊など、足元で起きている様々な問題は重要ではあるが、中国の成長という長期の問題とは、とりあえず切り離して考えたほうがよいだろう。

経済学者が一国の成長を考えると基本とするのが、成長方程式である。その国の成長率は、資本や労働

中国高成長、労働力の壁

働などの生産要素の増加のスピードと、全要素生産性(TFP)と呼ばれる生産性の向上によって説明される。とくに重要なのは、T

FPである。資本や労働が永遠に拡大を続けることは不可能である。

中国もその例外ではない。中国の経済成長は、農村部から大都市部の近郊に移動することによって説明される部分が大い。生産性の低い農村部から、先進国の技術水準の工場が進出する

のは、市場経済を導入する時点で膨大な農村人口を抱えていたことである。無蔵のように農村部から都市部へ労働者の流入が起きた。都市部での生産が拡大しても、労働が大幅に上昇すればそこそこの成長を維持できる。中国の消費が拡大すればそこそこの成長を維持できる。中国はTFPを高い水準で維持し、高い成長を続けることができるだろうか。

技術・生産革新がカギ

中国にかぎらず、急速な経済成長を続ける新興国の多くは、こうした農村部から都市部への労働移動、つまり農業から工業へのシフトによって、高い成長を続けてきた。かつての日本がそうだった。

中国にかぎらず、急速な経済成長を続ける新興国の多くは、こうした動きは、残念ながら元々の景気には重要な意味があるが、中長期の成長力が高騰している。沿岸部などで人件費が急速に高騰しているのが、その象徴である。さて、こうした中で、中国の場合に特に重要な

か、投資も消費もデマンドサイドの問題である。足元の景気には重要な意味があるが、中長期の成長力が高騰している。沿岸部などで人件費が急速に高騰しているのが、その象徴である。さて、こうした中で、中国の場合に特に重要な



伊藤元重の

ニュースな見方

*この記事は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。